

会 議 録

1 会議名

令和3年度 第10回春日区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 協議事項（公開）

○ 自主的審議について

1) 審議スケジュールについて

2) 審議テーマについて

3 開催日時

令和3年10月26日（火）午後6時30分から午後8時15分まで

4 開催場所

市民プラザ 第2会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：阿部一博、石田秀雄、市川 優、太田一巳（会長）、岡本重孝、白濱昭博、田中裕子（副会長）、谷 健一、藤田晴子、丸山佳子、山田 孝、吉田 実（副会長）、吉田義昭、鷺澤和省、渡邊康子（欠席5人）

・事務局：中部まちづくりセンター 小林センター長、藤井係長、山崎主事

8 発言の内容（要旨）

【藤井係長】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【太田会長】

・挨拶

【藤井係長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【太田会長】

- ・会議録の確認：市川委員に依頼

次第3 議題「(1) 協議事項」の「自主的審議について」の「1) 審議スケジュールについて」に入る。事務局より説明を求める。

【藤井係長】

- ・資料1、参考資料1に基づき説明

【太田会長】

今ほどの説明に質疑を求める。

(発言なし)

【太田会長】

資料1に記載されている内容は、あくまでも仮のスケジュール・予定である。自主的審議を進めるに当たり基準や目標的なものがなければ進めにくいと考え、正副会長と事務局で作成したものである。

次に、参考資料1は春日区の小学校区別の人口動態である。これについては、次回の会議で市の担当課より話が聞けることとなっている。

これらについて、質疑等あるか。

(発言なし)

以上で次第3 議題「(1) 協議事項」の「自主的審議について」の「1) 審議スケジュールについて」を終了する。

次に次第3 議題「(1) 協議事項」の「自主的審議について」の「2) 審議テーマについて」に入る。事務局より説明を求める。

【藤井係長】

- ・資料2、参考資料2に基づき説明

【太田会長】

資料2の「自主的審議テーマの調査結果について」は、委員より提出された意見を取りまとめたものであるため、特に質問や確認したいことはないと思う。

参考資料2は、背景やねらい等、自由記述をまとめたものである。参考資料2について、質疑を求める。

【山田委員】

参考資料2の第2位「災害への備え」の項目の中に、「防災士」の記載が何か所かある。現在、春日区には防災士は何人くらいいるのか。

【太田会長】

自分は勉強不足であり回答ができないため、詳細の分かる委員より補足願う。

【市川委員】

防災士の資格を持っている自分が補足する。

本日は資料を持ち合わせていないが、現在、市の防災士会に年間1,000円の会費を支払っている人は、確か17人だったと記憶している。

他の地区では防災士の活動を行う組織があるのだが、残念ながら春日区には組織ができていない。

防災士の試験に合格しても、上越市の防災士会に入らない人もいると思う。名簿で見た限りでは17人だが、新光町だけで4人の防災士がいるため、各町内に防災士がいるとは限らない。また、名簿に載っていない人でも防災士の資格がある人もいるかもしれない。

以上が春日区の現状である。

【山田委員】

防災士とはどのようなことを行うのか。

【市川委員】

本日の新聞に、大島区だったと思うが、先日、総合防災訓練を行った様子が出ていた。

上越市の防災士会では年に1度、場所を決めて、大体は9月1日の防災の日に合わせて総合防災訓練を行っている。自分は防災士の資格を取って3年ほどが経つが、その間、春日地区では訓練を実施したと聞いたことはない。もし春日区で訓練を実施する場合には、春日区その他、近隣の直江津区や高田区の防災士の資格を持っている人に協力してもらい、行うことになると思う。

年に1度、10月から11月にかけて防災士の資格試験があり、各町内会長のもとに案内がいく。そして、町内会長より推薦を受けた人が試験を受けることができる。

自分が受けた際の試験は、本試験で問題が30問出され、70パーセント正解で合格であった。

8月頃に300ページ以上ある教本が届き、その中から虫食いのレポートを研修の当日までに提出する。そんなに返される人はいなかったのだが、自分が受けた際は5人程が再提出を求められていた。

最近では若い女性や男性も結構試験を受けている。

自分は当時、町内の防災担当であったため、町内会長より受験を勧められて受けた。一緒に防災士の試験を受けた人たちのほとんどが、町内の防災担当の人であった。

防災士は総合防災訓練を毎年1回行っており、何もやっていないわけではない。

女性部では、先日も緊急時を想定し、ナイロン袋を使用して米を炊いたとのことであり、今後、市民プラザでの訓練の際にも実践するとのことである。

【太田会長】

山田委員以外にも、防災士との言葉を聞いたことがあっても、どのような活動をしているのか、どのような人が資格を持っているのか理解していない人も多いように思う。

全国的に、いろいろな災害があり、また近年は天災も多い。もっと防災士が増えると、地域の安全・安心に繋がってくるような気がしている。自分たちもまだまだ勉強不足であるため、これを機会に勉強していければよい。

他に質問や意見等あるか。

【谷委員】

第4位「まちづくり活動」で提案しているのだが、現在、春日区には地域づくりの中心となる組織体がない。その組織体づくりを検討し、作っていきたい。

中心となる団体がなければ、何を呼びかけるにしても、どこが母体となっていくのか分からない。「まちづくり」について、もう少し深掘りをするためにも、組織を構築していく必要があると思っている。

【太田会長】

前期の地域協議会では、自分は谷委員と同じ福祉分科会に入っており、そういった問題について検討していた。なかなかハードルが高く、各町内会長や地域住民への理解は難しいところもあると思う。今期の自主的審議のテーマの中にこういった内容が入ってきた際には、改めて検討していきたい。

議長である自分が発言するのはおかしいのだが、自分から1つ話をする。自主的審議のテーマや進め方についてである。

同率第4位の「住民同士の交流」の上から3つ目に、「春日地区に限定した親睦を図るためのいろいろなレクリエーションを行ってはどうか。例えば、輪投げ大会、健康ウォーク（春日山など）、ボッチャ、風船バレーなど」とある。

これは春日区の活性化のためによい活動だと思うが、地域協議会委員として気を付けなければならないこととして、地域協議会は実働部隊ではないということである。地域協議会が何かを計画して実行するのではなく、地域協議会は活動団体に提案するというか、一緒に活動してくれる団体を見つけることになる。

例えば、春日区地域協議会で「健康ウォークを実施する」「除雪作業を行う」ということではなく、どこかの町内会に「健康ウォークをやりませんか。その後支えを地域協議会が応援します」と提案し、これを支えていくことが地域協議会ができることである。このことを理解して、進めていければよい。

記載されている内容は、すごくよい活動だと思う。こういったものを計画して、活動してもらえるような地域団体が出てくればよい。

【谷委員】

第1位「春日山城跡」に記載のある「春日山城跡保存整備促進協議会」についてである。

この団体は活発に活動しているのだが、こういった活動の裾野がもっと広がるとよい。まとまって活動していくことによって、行政も意見を聞いてくれると思う。

また、整備保存については、行政の立ち位置が明確ではなく、春日山城跡保存整備促進協議会がすべて賄っているような状況にある。

参考資料2には「市は冷たいと感じる」といった意見もあるが、こういった団体の活動の枠を広げていくことができれば、団体としても自然とまとまってくると思う。

【太田会長】

春日山城跡の保存活動には、春日山城跡保存整備促進協議会のほか、各町内会、商工会議所、関連団体が、草刈や整備等を協力して一緒に行っている。市とも、もう少し連携ができて市全体で春日山を大事にしていくことができればよい。

他に意見等あるか。

【吉田 義昭委員】

どのように議長がまとめるのかと思って聞いている。

率直に何の意見でもよいのであれば、発言したい。

【太田会長】

この議題では「背景やねらい」だけではなく、今後進めていくことについての意見でよい。何かあれば、発言願う。

【吉田 義昭委員】

参考資料2には、第1位から9位までである。

第1位「春日山城跡」は、観光事業に結びついたまちづくりとして、いろいろな意見があるのだが、これは行政とタイアップして進める事項だと自分は捉えている。

次に第2位「災害への備え」については、住民の意識のベクトルが合うようなかたちの意見でなければ、まとめにくい項目だと思っている。

次に第3位「雪対策」は、昨年度の豪雪被害で痛い目にあったことを受けた、安全面が主な話だと捉えている。

次に第4位「まちづくり活動」と同じく第4位「住民同士の交流」が1番重要になってくると思っている。

例えば、地区対抗の行事をやってはどうか。町内だけで行事を行うのではなく、春日地区内の各層の人が集まって何かのイベントができれば、住民同士の交流ができて、共通のいろいろな問題に取り組むための間口を広げられるように思う。

資料に記載されているように、小・中・高校、そして後期高齢者等、いろいろな年齢層がある。参考資料1の「春日区における人口の変化」を見ると、2009年から2021年の12年間で、平均年齢が10歳ほど高くなっている。

今働き盛りで子育ても大変な40代くらいの層や、後期高齢者に近いような年代の層など、町内でどういうふうにまとめていくのか。核家族化により世帯の人数が減り、3世代とか2世代の世帯が少なくなっている中で、どのようにコミュニケーションが取れるのか。そして自分たちの世代の生きがいをどういうふうに作っていくのか。

我々は、人との交流によっていろいろな人的スキルを培ってきたが、今の若い人たちは飲み歩くこともなく、子育てに追われていて、人と接触する機会がない。会社組織でも、あまりコミュニケーションがなくなってきたと伝え聞いており、どこでそういったスキルを育てられるか。

そういった年代と全体的に融和して結び付けていくには、我々がお手伝いできるような仕組みを作っていかななくてはならない。併せて、PTAや子どもたちとの融和も進め、上下をサンドイッチしていかねばならない。

働き盛りの人たちは、長時間の勤務や土日出勤で、逆に土日は家族で過ごすという
ことはあるが、行事などには参加してこない。だから、人と交流するチャンスがない。

我々の知識でそういうことができる雰囲気を作れるよう、社会の輪を作っていかな
ければならないのではないかと自分は主張したい。そのためには、第4位の「住民同
士の交流」とか「まちづくり活動」について議論を煮詰めていくのがよいと捉えてい
る。

次に第6位「独居・空き家対策」は、情報の共有化である。

行政から「どこに独り暮らしの方がいるのか」「ここは空き家なのか」といったこと
を開示してもらおう。そして、町内の班の中で情報を共有していけば対応できる。大雪
の対応についても、町内で情報を共有していけば、対処できる話だと捉えている。

次に7位「水害対策」。これはもう完全なハード面の問題である。ハザードマップも
出ており、大きな地震は別だが、春日山のこの地区はよほどのことでなければ水害に
やられるところはない。土砂崩れの頻度も少ない。

水害対策をどういう方向で行うかについては、これはやはりアナウンスが焦点であ
る。災害情報のラジオ放送があるが、上越市の全地域の情報ではなくて、春日地区に
特化したような情報を流し、ピンポイントの注意喚起ができればよい。

また、今は河川に情報カメラがあるが、見方を知っているか。いろいろな情報をど
のように取ればよいか発信していければよいが、この地域はまだそういった体制が整
っていないと思う。そうしたハード面の不足をソフト面でカバーできる体制を作れば、
事前の水害対策になると考える。

次に第7位「研修等」については、今回は資料をいただいたが、関心が持てるデー
タがなく、一方的にこうだとか、雨が降ったら水出るとか、そんな話ばかりでなく、
数字に置き換えたものを提示していただかないと、我々はよい考えも発想も出てこな
い。会議の時にこういうものが欲しいとなった時には、速やかにそういうデータを提
示していただきたい。

研修会については、月1回の会議だけでなく、月2回でもよいから研修の機会を設
けて欲しい。そのために我々が選ばれている。月1回、皆さんの意見を聞くだけでま
とまるものではない。物事というのは、進めたらいろいろと課題が出て、それに対し
て向かっていかなければ前進しないと思う。

それから、第9位に「交通安全」や「住みやすさ」があるが、住みやすさが1番の

結論である。今まで挙げたようなことが整理できて初めて、住みやすい上越市になる
と思っている。

【太田会長】

研修については、今後、皆さんでこういうことを聞きたい、情報提供が欲しいとい
うようなことが挙がってくれば、次回の会議時に関係部署に来てもらう、必要な資料
を提示してもらうというようなかたちで、長い時間のものを設定するだけではなく、
今ほど吉田委員の発言にあったように、必要な研修は回数を増やしてやっていきたい。
他に意見等あるか。

【鷺澤委員】

先ほどの吉田委員の発言について、自分もずっと考えてきて、最終的には発言にあ
ったような問題の指摘に集約できると思う。

例えば、キーワードの第4位「まちづくり活動」がある。結局、自主的審議事項を
まとめれば、住みやすい春日地域を皆でどう作っていくか。そのためにどういう問題
があるのか。安全・安心もある、福祉もある。教育もある。そして、春日区の特徴を
活かして観光を活性化させ、もっと賑やかな、皆が喜んで来てくれるような地域にす
るということを考えると、一言で言えば「まちづくり活動」に集約されると思う。

そういった点で、吉田委員とまったく同じことを考えていたのだが、違った面で1
つだけ聞きたいことがある。

キーワードの第1位「春日山城跡」の観光問題を指摘された委員がたくさんいる。
自分も春日山城跡は春日地域の重要な宝であると思っており、多くの人々に知って
もらいたい。ただし、春日山城跡だけではやっていけないと思う。

今まで行ってきた、例えば、灯籠を作った、旗を作った、土産物を作った等。ある
いは、整備がまだ行き届いていないところを整備するといったことだけやっても、
本当に春日山城跡がすばらしい観光資源となって活きるのか疑問に思っている。

春日地域だけではなく、例えば、直江津には海や水族館、高田には高田城址やハス
などさまざまな全国に誇れる観光資源がある。観光資源を抱える地域が何らかのかた
ちで連携し、春日山城跡もその中の1つとして活性化していく。観光資源としてより
豊かになっていく。そういった状況が大事だと思う。

春日山城跡についての指摘は非常に貴重な意見だと思うが、他の地域・観光資源と
の連携を通年観光に活かしていく。1回来て終わりではなく何回も来たい。スキーを

して、素晴らしい食事をし、資源も見て、何回も来たいと思うような春日地域、あるいは上越市にしていくために、“連携”について提案した委員より、何か意見があれば教えてほしい。

【太田会長】

第1位「春日山城跡」について、意見を記載した委員で何か考えていることがある委員の発言を求める。

(発言なし)

他に何かあるか。

【田中副会長】

先ほどの山田委員の発言にあった「防災士」について、事務局で調べてほしい。

理由として、自分は2年前に防災士の資格を取ろうと思ったが、町内会長の推薦がいるとの話で、当時は「市では募集をしない」といった話も聞いた。全体的にも、何十人との枠があり、「地域に1人」というわけではないといったようなことも聞いた。

先ほどの市川委員の説明は間違っていないと思うのだが、一応このタイミングで、防災士についてまとめる作業を事務局に願ってはどうかと考えている。

【太田会長】

事務局より補足願う。

【小林センター長】

田中副会長の件については、了承した。次回の会議にて、防災士について分かりやすくまとめたものを配付したい。

私は、平成18年に防災安全課の職員であったため、防災士について、自分の知っている限りで補足したい。

平成16年に中越地震が起きた。その当時、同時多発的に起こる災害について、消防・警察・自衛隊では地域をすべて守れないといった議論があった。そこで各町内に自主防災組織を作ろう、自分たちで自分たちのことを守るといった動きが進み、当時もかなりの町内会で自主防災組織が結成された。これは全国的な流れである。

それと同時に、リーダーとして、先導してくれる専門的知識を持った人材を養わなければならないということで、市では「防災士の養成講座」というものを作った。

「防災士」は市で作っている資格ではないのだが、しっかりとした資格である。

災害時に、例えば、避難所をどう設置するのか、危険箇所をどのように設定するの

か、どうやって自分の身を守るのかといった知識について、市川委員のように防災士試験に合格した人物を、各町内で1人ずつ置くとの流れが、自分が防災安全課にいた頃にあった。

それに対し市として、定員数を決めて防災士養成講座への補助金を出していた。

不勉強であり、その後どこまで防災士が増え、現在も市の補助金が続いているのかについては把握していない。そういったことについては、次回の会議で資料を配布したいと思う。

【吉田 義昭委員】

先ほども第2位「災害への備え」について話したが、防災士を任命し組織を作っても、例えば、各町内が防災訓練をやるとなったときに、住民が一つになって実施できるか。地域で防災士だけを用意し、防災士に任せるだけでは、現実的には人は集まらない。もっと身近な運動によって、住民同士で「防災は大事だね」と話が出るようなつながりができて、初めて防災士が活きてくる。

防災については、住民の意識のベクトルが合っていなければ、議論しても、お金をかけても意味がないと思っている。防災士の資格は取ればよいが、取った資格をどう活かすかが大事である。

【市川委員】

各町内には「自主防災組織」があり、年に1回から2回、避難訓練を実施していると思う。

自分の町内の場合、自主防災組織の各組に防災係が3人、多いところでは5人から6人いる。避難訓練等を行う際には、防災士は町内会長と町内会館にいて、各組の参加人員等いろいろなことを把握し、参加者に総合的に話をする。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により最近では実施できていないが、「防災講話」を開催している。いろいろな知識を習得したため、それを伝えていくのが防災士の役割だと思う。

また、市内に防災用品を販売する会社があるのだが、その防災士に町内に来ていただいて、災害時を想定して、ナイロン袋に米を入れて炊く方法や、新聞紙を利用したスリッパの作り方、トイレの方法等の説明を行った。

いろいろなハザードマップを分析し、町内の住民を対象に防災講話を行っている。40人程度の参加しかないが、緊急時の対応をクイズ形式にして出題するなど、いろい

ろなことを行っている。

防災士の役割は非常に多岐多様にわたるため、各町内にいる防災士が何を行っているのか一概に言えないが、防災士は防災士なりに各町内で活動していると思う。

【吉田 義昭委員】

防災士について否定的に考えているわけではない。

そうした資格を取ったら、防災訓練等を行った際はどの位の参加があるのか。木田は3,600人ほどが住む町内だが、2年前に訓練を行った際の参加者は100人弱であり、町内人口の1割にも満たなかった。そのくらいの意識しかないということである。

防災士は専門的な知識を有しているため、いろいろな活動を行う。だが、それが住民全体に広がっているかは疑問である。住民のチームワークや防災意識を高めてからそういった課題に向かっていく必要がある。自分はそういったことが言いたい。

【市川委員】

自分は防災士の資格を取ってから、「火事になった時はどうするのか」「地震がきた時にはどうするのか」といったことを資料にまとめ、町内で回覧するなど活動している。

各町内に防災士はいると思うが、動きについては、各自いろいろな考えがある。自分は、自分の持っている知識をある程度全員に理解してもらい、何かあった時には「自分の命は自分で守る」ということを優先的に考えて行動してほしいと思い、活動している。

【藤田委員】

防災のことは大事であるが、他にもいろいろと大事なことはある。

参考資料1の人口の変化を改めて見ると、若者が減少し、出生数も減少している。そういったことも、これからの時代には危機感を持って考え、行動していく必要がある。

そのため、今後は第4位の「まちづくり活動」や「住民同士の交流」といったことが大事になってくる。どのキーワードも大事なのだが、まずは地域住民が喜ぶような活性化を、町内や地域で実現していく必要がある。

昔と今を比べると、親子の繋がりが薄れてきているように思う。夫婦間はよいが、親戚や地域との繋がりが薄れてきているように感じている。それを何とかするためには「住民同士の交流」だと思う。そういったことができる地域となれば、隣同士の付

き合いも広がっていくと思う。

年を取った時に近所の住民と助け合う。自分たちの世代は割とできていると思うが、今の若者が年を取った時にそういったことがどの程度できるか考えると、やはり「住民同士の交流」を大事にし、活性化して、次の世代に繋いでいけるような春日区にしたい。

【谷委員】

最近子どもたちの数が少なくなっている。子どもたちの活動を見ても、参加する子どもや地域の若い人が少なくなっている。この状態を見過ごしていると、将来、活動に参加しない子どもが大きくなった時、地域との関わりはどうなるか。将来のまちづくりを考えた時に非常に危惧する点がある。

さらに新型コロナウイルス感染症の影響で、活動が停滞している。そういった研究を行っている大学の教授は、コロナ禍で生じた影響が元に戻るには数年かかるとのことである。「自粛」が当たり前になってしまうのではないかと、地域交流・地域活動というものにどのような影響を与えるのか、研究者たちも危惧している。

そうした中で、人口の推移を見れば、若年層をどのように増やしていくか考えなければならない。高齢者は多く、やれることもたくさんある。子どもと繋がることで、子どもたちを地域に関わらせていくことも、まちづくりの中で大事だと思う。

【吉田 義昭委員】

地域協議会委員は高齢の方が多い。参考資料1を見ると、60歳以上の人口が全体の約15%を占め、2009年と比べ相当増えてきている。さらに10年後には20パーセント近くまで増加することが考えられる。

なぜ、このように変わったのかというと、昭和と平成の間にイノベーション、相当な技術革新があったためである。

例えば、自分たちが生まれた時代には、洗濯板で洗濯していたのだが、現在は洗濯機を使用して自動で洗濯をしている。自分たちの時代はダイヤルを回して電話をかけていたが、現在は携帯電話を使用して簡単に何でもすることができるようになった。

こうした中で育った子どもと自分たちとはギャップが大きい。そのため、自分たちの思いで何かを行おうとしても、必ず、「年寄は何を言っているのか」といったギャップが生じる。このような中で、世代はだんだんと隔離され、一緒になっていないわけである。

資料を見て、自分たちの世代がいろいろと経験したことを、どのように他の世代にフィードバックし、住民のコミュニケーションを調和させていく仕組みに、いかに寄与できるのか。そういうところがこの時代のポイントではないか。こうしたことから、第4位「まちづくり活動」の仕掛けをどのように行うかに絞って議論したほうがよいと思う。

「観光」は連携が取ればよい。例えば、土日・祭日は「ハス祭りがあります」「親鸞聖人が上陸したところですよ」と、季節の目玉となるものを提案し、路線バスを循環させるなど、いろいろなリンクを作ればよい。春日地区だけで頭を悩ますのではなく、地域を広く捉え、もっとPRすればよい。そうなれば、地域協議会は「こういった構想はどうですか」といった提案をすれば済む話だと思っている。

それよりも、春日地区の町内の融和をどう行うかについて、我々は町内会長とタイアップした中でどう仕掛けていくのかを論議し、詰めていくことが1番よい、相応しいとテーマだと思う。そういった審議をしてほしい。

【太田会長】

まずはテーマを決め、そこに向かっていかなければならない。

次に、自主的審議の柱となるテーマや審議体制について検討していきたい。審議体制は、これまでもいろいろなかたちがあることを話してきた。全員で1つのテーマに向かって協議を行うか、または分科会形式で、いくつかのテーマでグループ分け、グループ討議の結果を全体で共有しながら、少しずつ解決していく方法がある。

この他にも別の方法や進め方があれば、提案してほしい。

【谷委員】

いろいろと考えると、町内会長連絡協議会と話し合うことが多々あると思う。そういった中で、人口問題を共通のテーマとして協議していけば、的を射た意見が出てくると思う。「春日区の人口はこのように変化している」ということを軸にして、各町内会長の意見を聞く機会を設けてはどうか。

【太田会長】

町内会長連絡協議会と意見交換した後で、テーマや課題を決めたほうがよいということか。

【谷委員】

漠然と意見交換をするのではなく、テーマを絞って行ったほうが効率がよい。

【太田会長】

「人口の動向」を春日区の自主的審議テーマとし、全員で進めていくということか。

【谷委員】

共通のテーマを決めて実現していく。共通のテーマのほうが関心と呼ぶと思う。

町内会長も、地域の若年層と高齢者層についていろいろと考えていると思う。地域によって非常にばらつきがあり、人口が増えている町内と減っている町内がある。増えている町内にはその理由があり、そういったことをよく理解しながら考えていくべきではないか。

【太田会長】

谷委員としては、自主的審議のテーマを「春日区の人口の動向」とし、いろいろ研究していったほうがよいということか。分科会形式ではなく、春日区地域協議会委員20人が全員で人口の動向をテーマとして考えていってはどうかとの捉え方でよいか。

【谷委員】

「人口の動向」をテーマとするのであれば、分科会よりも全体で話し合っていたほうがよい。

【太田会長】

「人口の問題」をテーマとした場合、例えば“市長に意見書を出す”“どこかの団体に提案をする”など、地域協議会で人口増加に繋がるようなことができるのか。

また、資料に記載されているキーワードやテーマにも入っていない。

できれば、事前に委員より提案されたキーワードの中から自主的審議のテーマを決めていくことが妥当だと思っている。

【岡本委員】

先ほどから意見を聞いていると、人それぞれでどのキーワードについて審議したいのか考えがあると思う。そのため、自分でいくつか候補を絞り、分科会形式で自分がやりたいものを選んで審議する方法がよい。

【山田委員】

自分も岡本委員の意見に賛成である。20人の委員全員で1つのテーマを進めるよりも、例えば「春日山城跡」「まちづくり」「安全・安心」といった3つ程度のグループに分かれ、それぞれのテーマごとに話し合ったほうがスムーズに進むように思う。

【吉田 義昭委員】

自分としては、観光なら観光として、先ほど発言したとおり観光資源をリンクさせてPRし、人を呼べるようなテーマで取り組んではどうかと思う。ただ“草刈りをする”のは一つの手段でしかない。それをどのように、市とリンクして仕掛けていくのかといったことも、よいテーマだと思う。そして、火薬庫に火をつける、引き金を引くのは春日区だとしても、高田区や直江津区を呼んで、観光の目玉をつくることもよいと思う。

次に「災害への備え」をテーマとするのであれば、仕組みを作ればよい。

そして「まちづくり活動」や「住民同士の交流」をしっかりとしなければ、春日地区はうまくいかないと思う。

以上の3つ程度のキーワードに絞り、それぞれの意見を活かしていったらどうか。これ以外のキーワードは、すべて「住民同士の交流」に関わってくると思う。そういった捉え方のイメージを持ち、グループに分かれて進めていけばよい。

【太田会長】

正副会長と事務局で、事前に資料2や参考資料2等をもとに検討し、今後の進め方について正副会長案を作成した。その腹案と、先ほどの吉田 義昭委員の考えも合わせながら検討していったらどうかと考えているのだが、資料を配布してよいか。

(よしの声)

－ 資料追加配布 －

【吉田 義昭委員】

発言のついでに事務局にお願いしたい。

観光について、例えば、直江津地区であれば「親鸞聖人」「うみがたり」といったような、“地域ごとの観光の動き”について情報を提示してほしい。どの地区が何を売り込もうとしているのか情報を集め、それを融合することで、上越市の観光について検討することができる。

【太田会長】

吉田 義昭委員の意見の前に、正副会長案について説明する。

これまで、テーマに関するキーワードとして、まずは「春日山城跡」、次に「災害への備え」や「雪対策」、もう1つが「住民同士の交流」や「独居・空き家対策」が大事だとの意見が、調査結果だけではなく自由討議の中でも出ていた。これらを整理していくと、前期の地域協議会と同様の「観光」「安全・安心」「福祉」の3つの分野に分

けられる。

先ほどの吉田 義昭委員の発言にあったが、観光の分科会で、他地区がどのように観光に取り組んでいるのか等については、観光の分科会で事務局に資料や情報について用意してもらえよう進めていけばよい。

このようなかたちで、3つの分野に分けて進めていってはどうかと考えている。それに関連して、資料1を見てほしい。

最初の事務局の説明にもあったが、3つの分科会に分かれて進めていくのであれば、分科会で検討し、次の協議会の中で各分科会が報告して全体で共有する。そして、自分の分科会以外の報告に意見があれば、発言する。次の分科会では、その意見を参考にさらに議論を深めていく。そういった手順を繰り返し、検討を進めていくということである。

正副会長案について、質疑を求める。

【岡本委員】

正副会長案に記載されているキーワードは、委員の意見や希望が多かったものが抽出されているのか。

【太田会長】

そうである。

【岡本委員】

春日区の委員は20人であり、3つの分科会に分けるのであれば、6人から7人のグループとなるため、よいと思う。欲を言うと、人によって熱心に取り組めるキーワードとそうでないものがあると思うため、委員の希望を優先してほしい。

テーマは、調査結果の得票順でよいと思う。

【太田会長】

参加する分科会については、第1希望から第3希望までで、各自の希望を取りたい。人数に偏りがあった場合は、希望を考慮したうえで振り分けたい。皆が第1希望の分科会になればよいが、希望に添えない場合もあると思う。その場合には、全体会にて意見を出してほしい。

キーワードについては、得票数を踏まえて記載しているが、他にもいくつかキーワードが出ていたため、何について審議していくかは分科会の中で議論してほしい。

他に意見等あるか。

【鷺澤委員】

正副会長案には、分科会及びキーワードが大きく3つ記載されている。

前期の地域協議会でも、全く同じ3つのキーワード・分科会で議論してきた。その結果として、土産物の試作や市長へ意見書の提出等を行った。前期の協議結果を踏まえて、今期の自主的審議につなげていきたい。

前期は、私は福祉分科会に所属していた。分科会で課題を絞っていく中で、町内・地域全体で取り組むべきは「高齢者福祉」と整理し、町内会長等を含めて「どういう組織で地域を動かしていくのか」を検討していたところで任期が終了してしまった。

前期に審議したポイントを踏まえ、今期の自主的審議の方向性をどう発展させていくか考えたほうが、非常に有意義だと思う。そのため、前期で集約されたものがあるのであれば資料として配付してほしい。ゼロから審議するのではなく、可能なところから継続して審議していくような方向も検討してほしい。

【太田会長】

前期の途中経過・審議結果については、今年度7月の協議会にて資料として配付している。資料を確認し、やり残したところや審議途中のもの等、参考にしながら進めてもらえるとよい。

他に意見等あるか。

(発言なし)

それでは、正副会長案で問題なければ、3つの分科会に分かれて自主的審議を進めていきたいと思うが、よいか。

(よしの声)

今から分科会のグループ分けの希望調査票を配付するので、会議終了後に提出してほしい。次回の協議会では分科会のグループ分けを行いたい。

分科会では、分野ごとにいろいろなキーワードがあるため、分科会ごとのやり方で進めてほしい。

【太田会長】

以上で次第3 議題「(1) 協議事項」の「自主的審議について」の「2) 審議テーマについて」を終了する。

次に次第3 議題の「(2) その他」である。本日の議題に関して、何かあるか。

(発言なし)

以上で次第3 議題「(2) その他」を終了する。

次に次第4「その他」の「(1) 次回開催日の確認」に入る。事務局より説明を求める。

【藤井係長】

- ・次回の協議会について説明

【太田会長】

－ 日程調整 －

- ・次回の地域協議会：11月26日（金）午後6時30分から 市民プラザ 第2会議室
- ・内容：市立保育園の民間移管についての経過報告

上越市総合体育館の改修工事について

自主的審議について

本日、提案があった人口動態に関する情報提供については、担当課の都合により次回11月の会議での実施が難しいため、次々回の12月の会議の中で研修会として実施できるよう調整する。その他、何かあるか。

【藤井係長】

春日山城跡保存整備促進協議会より、今年度の地域活動支援事業について相談があった。内容は、現地確認を踏まえ、整備箇所を変更したいというものである。場所の変更はあるが、事業の趣旨や金額に変更はないため、市としてはこの変更を承認する予定である。

次に、今年度、団体では、春日山城跡に関する説明会開催を計画していたが、コロナ禍の状況を踏まえ、現地説明会の実施に変更したとのことである。本説明会については、希望があれば地域協議会委員の参加に対応するとのことであるため、希望する委員は、10月29日までに事務局に連絡してほしい。

【太田会長】

その他に何かあるか。

【鷺澤委員】

春日山荘の件について、変更等があった際には連絡が来ることになっていたかと思う。その後、何か動き等はあったのか確認したい。

【藤井係長】

以前の協議会の質問があったため、担当課である高齢者支援課に確認をした。詳細は決まっていないが、近々、説明の機会を設けられればと考えている。

【太田会長】

何か動き等があれば報告してほしい。他に何かあるか。

(発言なし)

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。